

令和 6 年度

運営に関する計画

【最終評価】

大阪市立小林小学校

令和 7 年 3 月

大阪市立小林小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和 3 年度の「運営に関する計画」における最終評価から、本校の現状と課題は以下のとおりである。

全教職員が平素より児童に寄り添い、保護者との連携を密にして教育活動に取り組んでいる。「いじめアンケート」を学期ごとに行い、認知したいじめについては、生活指導部会で共通理解を図り、いじめ防止対策委員会を開き、学校を挙げて対応することで、解消することができた。一方で、令和 3 年度の校内調査の「自分にはよいところがありますか」の項目において、否定的な回答をする児童が 3 割に及ぶなど自尊感情の向上は十分とは言えない。

体力面では、柔軟運動を普段の授業に取り入れたり、全校でストレッチ週間を設けたりするなど、課題である柔軟性の向上に取り組んできた。取り組みを継続的に実施した結果、令和 3 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、男女ともに全国平均を超える記録を残すことができた。学力面では、小学校学力経年調査の結果から、標準化得点において大きく向上し、目標を達成することができた。一方で、全国学力・学習状況調査において、国語と算数が共に全国平均を下回るなど、基礎学力の定着に課題がある児童が多い。

ICT の活用については、令和 3 年度より導入された教育情報利用パソコンの効果的な利用について視聴覚係を中心に模索している。本校では、5 月の分散登校期間を機に毎日端末を持ち帰るようにし、自宅でオンライン学習をできるようにした。しかし、スクールライフノートなどを全学級で取り組んでいるものの、取り組みの頻度は学年間でばらつきが見られる。今後も ICT の活用方法を探り、教職員で共通理解を深め、教職員・児童共に情報活用能力を向上させていく必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 82%以上にする。

【学力経年調査 R4:80.9% R5:80.1% R6:82.3%】

- ② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。

【学力経年調査 R3:58.5% R4:61.1% R5:67.2% R6:60.5%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 令和7年度小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比平均を、令和3年度平均より5ポイント向上させる。

【学力経年調査 R3:0.84 R4:0.78 R5:0.87 R6:0.79】 ※0.01を1ポイントとする。

- ② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を74%以上にする。

【学力経年調査 R4:63.7% R5:72.1% R6:70.4%】

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上とする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]

【学習者用端末利用状況 R6:65.4%】

- ② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

【年次有給休暇10日以上取得 R6:93.3%】

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。

【学力経年調査 R4:80.9% R5:80.1% R6:82.3%】

- ② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を68%以上にする。

【学力経年調査 R3:58.5% R4:61.1% R5:67.2% R6:60.5%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

R6:3年 0.76

R5:3年 0.89 ⇒ R6:4年 0.81(↓0.08)

R5:4年 0.85 ⇒ R6:5年 0.75(↓0.1)

R5:5年 0.82 ⇒ R6:6年 0.84(↑0.02)

- ② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を73%以上にする。

【学力経年調査 R4:63.7% R5:72.1% R6:70.4%】

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]

【学習者用端末利用状況 R6:65.4%】

- ② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。

【年次有給休暇10日以上取得 R6:93.3%】

3 本年度の自己評価結果の総括

○中期目標の達成に向けた年度目標について

【安全・安心な教育の推進】

- 5月・9月・2月に「いじめ・いのちについて考える日」を設定し、学校長が全校朝会でいじめに関する講話をしたり、学級でどのような態度がいじめにあたるのかを考える時間を設けたりした。いじめは絶対してはいけないことの指導を継続することで、「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」という意識を高めることができた。また、「いじめアンケート」の結果を教職員全体で共有し、いじめと思われる事案が発生したら、素早く対応ができるような体制作りを続けている。
- 小学校学力経年調査の「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について肯定的に答える児童の割合は前年度よりも下回ったが、全学年対象の校内調査では、73.8%の児童が肯定的な回答をしている。高学年になるにつれて自尊感情が低くなる傾向があるので、たてわり班活動や委員会活動、クラブ活動など、高学年が活躍している場でよさを伝えていくなど、自尊心を高めていくことができるような取り組みを実施していく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査の算数科の結果を同一母集団で経年比較したところ、昨年度よりも下回った学年があった。しかし、算数科の学習時間の導入に「計算タイム（5分間程度の学年に応じた計算プリントに取り組む時間）」を1年間実施することで、計算問題の対全国比との差が昨年度より縮まった学年もあった。「計算タイム」の実施方法や内容を検証し、計算力向上につながる取り組みを今後も実施していく。
- 小学校学力経年調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」の項目に対して、最も肯定的な「好き」と回答した児童の割合は目標を下回った。しかし、「好き」「どちらかといえば好き」を合わせた肯定的な回答をした児童の割合は84.4%と多くの児童が運動に親しんでいることが分かる。なわとび週間やかけ足週間などの体育的行事を実施したり、雨天時にも講堂を開放して遊ぶことができるようにしたりするなど、児童が運動に親しむことができる機会を設けたことが要因と考えられる。なわとび週間では、なわとびの技を紹介する学習カードを配布することで、休み時間にも意欲的になわとびの練習に取り組む姿が見られた。今後も、楽しく運動に親しむことができる工夫を考えていく。

【学びを支える教育環境の充実】

- スクールライフノートの「心の天気」に取り組むことで、全校児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 65.4%（１月時点）と目標を大きく上回った。校内調査においても「日々の学校生活の中で学習者用端末を活用している」の項目に対して、「ほぼ毎日」と回答する児童の割合は 79%と、昨年度の 56%を上回った。「心の天気」を活用することで、児童が抱える悩みやトラブルを把握することにもつながった。今後も継続して「心の天気」の活用を進めるとともに、自主学習アプリ「ナビマ」などの活用方法も模索していく。
- 夏季休業期間には９日、冬季休業期間には４日と昨年度よりも多く学校閉庁日を設定することができた。また、ゆとりの日を月に４回設定し、１８時を目安に退勤するように取り組むことができた。定時退勤ができるように、次年度も学校行事や会議等の精選を行っていく。

○年度目標の達成に向けた取組内容について

【安全・安心な教育の推進】

すべての項目で「年度目標の達成に向けた取組内容」を達成することができた。「友だちに何かしてもらったときには『ありがとう』と言っている」「相手にいやな気持ちにさせたときには『ごめんなさい』と言っている」という項目で、どちらも目標を上回ることができた。しかし、教職員から物を借りたり、手伝ってもらったりしても、何も言わず立ち去っていく児童を見かけることがある。また、児童からは「何かをされていやな気持ちを伝えたが謝ってもらっていない」という訴えが度々生じている。誰に対しても感謝の気持ちを伝えることと相手を傷つけてしまった時には素直に謝ることが今後の課題と考えられる。あいさつに関しては、毎月「生活振り返りアンケート」を実施し、自分のあいさつについて振り返る機会を設けてきた。また、代表委員会で「あいさつ運動」を実施し、元気よくあいさつをする模範を示すことで、自らあいさつを行うことができる児童が増えてきている。今年度は、運動会の応援団も「運動会を盛り上げるために、朝から元気なあいさつができるようになってほしい」と自主的に「あいさつ運動」を実施することができた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

すべての項目で「年度目標の達成に向けた取組内容」を達成することができた。今年度より、算数科を研究教科とし、４月には算数科の授業研修会、７月には教材研究の仕方を学ぶメンター研修を実施した。大阪市学力経年調査の結果を分析し、次年度の研究につなげていく。運動と健康に対する意識を高める取り組みとしては、全学年で休み時間になわとびや持久走に取り組む「かけ足集会」や「なわとび集会」、「けんこうしらべ」や「けんこう週間」などの健康安全・体育的行事を実施することができた。

【学びを支える教育環境の充実】

すべての項目で「年度目標の達成に向けた取組内容」を達成することができた。今年度は、3年生以上を対象に「KDDI 情報モラル講座」を実施し、携帯電話・スマートフォンの安全な使い方について学ぶことができた。スマートフォンを所持している児童が増えたことにより、毎年のようにSNSをめぐるトラブルが生じている。5年生が「情報モラル」についての学習を学習参観で実施するなど、児童への指導とともに保護者への啓発も行っている。今後も、家庭と連携を取りながら、児童が正しく情報端末を利用できるようにしていきたい。教職員の働き方改革に関する項目では、夏季休業日や冬季休業日に学校閉庁日を設けることで、年次有給休暇が取得しやすい環境になってきている。しかし、学校授業日の時間外勤務時間が昨年度より減少しているものの大阪市平均と比べると依然として多くなっている。今後も、学校行事や会議の精選をし、長時間勤務解消に向けて取り組んでいく。

大阪市立小林小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。【学力経年調査 R4:80.9% R5:80.1% R6:82.3%】 ② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を68%以上にする。 【学力経年調査 R3:58.5% R4:61.1% R5:67.2% R6:60.5%】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向性2 豊かな心の育成】 相手の気持ちを考え、思いやりのある学級づくりを進める。 ----- 指標 ・ 「いじめ・いのちについて考える日」を年3回実施し、児童がお互いについてよく理解し合い、相手の立場に立って考える機会を設けることで、生活振り返りアンケートの「友だちに何かをしてもらったときには『ありがとう』と言っている」「相手にいやな気持ちにさせたときには『ごめんなさい』と言っている」という項目について、肯定的に回答する児童の割合の平均を80%以上にする。	A
取組内容②【基本的な方向性2 豊かな心の育成】 すすんであいさつができる子どもを育てる。 ----- 指標 ・ 代表委員会による「あいさつ運動」を年1回以上実施することで、生活振り返りアンケートの「学校で自分から丁寧なあいさつができた」「おうちの人や見守り隊の方に自分からあいさつができた」という項目について、肯定的に回答する児童の割合の平均を80%以上にする。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標の達成状況】 ① 指標の81%の目標は上回ることができた。定期的にいじめについて考える機会を設けたことで、「いじめはいけない」という意識が児童に浸透してきている。 【学力経年調査 R6:82.3% 校内調査 R6:85%】 ② 小学校学力経年調査における肯定的回答の割合は指標を下回った。しかし、校内調査での回答の割合は、指標を上回っている。各学級で自尊感情を高める場を設け、児童も積極的に活動するものの、小学校学力経年調査の時に想起しにくいことが原因と考えられる。 【学力経年調査 R6:60.5% 校内調査 R6:73.8%】

【取組内容の進捗状況の結果と分析】

- ① アンケートの結果から、目標を大きく上回ることができた。年3回「いじめ・いのちについて考える日」を設定することで、学校長の話の聞いたり、学級で話し合ったりすることができた。また、振り返りアンケートの項目が具体的で、児童が様々な場面を思い出しながら振り返ることができた。

【校内調査 『ありがとう』と言っている R6:97%】

【校内調査 『ごめんなさい』と言っている R6:99%】

- ② 代表委員会や応援団のあいさつ運動の取り組みにより、指標を大きく上回ることができた。アンケートで95%以上の児童ができていないと回答している一方で、実際には「自分からあいさつができていない」「声が小さい」などの課題がみられる。

【校内調査 学校で自分から丁寧なあいさつができた R6:95.5%】

【校内調査 おうちの人や見守り隊の方に自分からあいさつができた R6:93.5%】

次年度への改善点

【年度目標】

- ① 目標として、いじめの根絶を継続して掲げ、粘り強く取り組む必要がある。そのために「いじめとは何か」という定義づけから指導をし直し、教員が一緒に考え、根絶に向かう強い意志を児童に示していく。
- ② 小学校学力経年調査の時に下回っていることを考えると、学力について自信がない児童も多くいると考えられる。日々、児童の頑張りを認めていく活動を継続して行いつつ、学習面についても自信がもてるように指導をしていく。

【取組内容】

- ① 「ありがとう」や「ごめんなさい」を伝えることは、コミュニケーションをとる上で必要なため、自発的に言えるように今後も引き続き指導していく。次年度からは、相手に伝えられているのかという視点でも、肯定的な回答を高めていきたい。
- ② 声かけやあいさつ運動の取り組みを続けながら、相手に伝わりやすいあいさつの仕方を考えさせ、児童が自発的にあいさつをできるようにしていく。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標の達成状況】</p> <p>① 平均正答率の全国比を経年比較したところ前年度よりも全ての学年において上回ることとはできなかった。算数科を研究教科として様々な取り組みを行ったが、学年内での学力差が大きく、基礎的・基本的な学力の定着が難しい実態があったのではないかと考えられる。</p> <p style="text-align: center;">R6:3 年 0.76</p> <p>R5:3 年 0.89 ⇒ R6:4 年 0.81(↓0.08)</p> <p>R5:4 年 0.85 ⇒ R6:5 年 0.75(↓0.1)</p> <p>R5:5 年 0.82 ⇒ R6:6 年 0.84(↑0.02)</p> <p>② 指標は下回っているが、肯定的な回答は 84.4%と、ほとんどの児童が運動に親しんでいる。高学年の児童が低学年の児童と一緒に遊び、楽しんで体を動かしている児童が増えた。大谷グローブを活用し、キャッチボールをして多くの児童が遊んでいる。【学力経年調査 R6:70.4%】【学力経年調査 肯定的回答 84.4%】</p> <p>【取組内容の進捗状況の結果と分析】</p> <p>① 算数科研修を 2 回実施し、計画的に研修を進めることができた。研修を通して、算数科の学習の進め方の共通理解を図ることができた。</p> <p>② 目標を大きく上回る結果となった。児童が家庭学習に取り組めるよう、日々の声かけや家庭との連携を図ってきた。また、家庭学習が難しい児童に対しては、放課後学習や放課後に残って宿題に取り組めるようにしてきた。児童が家庭学習を学校でも取り組める環境があることは大きく結果に反映していると思われる。9 月に「宿題の取り組み方」の研修を行い、各学年の宿題内容や児童の実態、個別対応の工夫などを学校全体で共有することができた。【校内調査 R6:92.5%】</p> <p>③ 体育的行事を年間 4 回行い、指標を達成することができた。毎月の「けんこうしらべ」では、日々の生活習慣を振り返ることができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>【年度目標】</p> <p>① 計算領域に特化せず、全ての領域における基礎・基本の力を身につけるための取り組みや学力差を考慮した授業づくりを工夫していく。</p> <p>② 遊びの種類（なわとび台や鉄棒の補助具など）を増やし、より体を動かすことの楽しさを感じられるようにする。</p>	

【取組内容】

- ① 計算力を高めるための取り組みを継続していく。また、他の領域における基礎・基本の力を身につけるために研修を行ったり、授業づくりを工夫したりしていく。
- ② 家庭学習に取り組めるよう家庭との連携を図ったり、児童の実態に応じて宿題の取り組み方について工夫したりしていく。また、年に1回「宿題の取り組み方」の研修を行い、学校全体で情報共有していく。
- ③ 計画通りに体育的行事を実施できた。運動委員会の取り組み内容の見直しや体育的行事の見直し・工夫をしていく。

大阪市立小林小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上とする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] 【学習者用端末利用状況 R6:65.4%】 ② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。 【年次有給休暇10日以上取得 R6:93.3%】	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 情報社会の特性を理解し、適正な活動ができるよう指導する。 ----- 指標 ・ 全学年、情報モラルについての学習を年1回以上行う。	B
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ゆとりの日（全教職員が18時までに退勤する日）や学校閉庁日の設定、学校行事や会議の精選・短縮などにより、働き方改革を推進する。 【R6 学校閉庁日：夏季休業中9日 冬季休業中4日】 ----- 指標 ・ ゆとりの日を月に4回設定する。 ・ 学校閉庁日を夏季・冬季休業日期间中に合計5日以上設定する。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標の達成状況】 ① スクールライフノートの「心の天気」機能を活用することで、児童が学習者用端末を活用する割合が目標を大きく上回った。登校したら「心の天気」を入力する習慣が児童に身についてきている。また、発表の時に「発表ノート」機能を活用したり、自習課題に自主学習アプリ「ナビマ」を活用したりするなど、様々な活用が見られた。 【学習者用端末利用状況 R6:65.4%】 ② 目標を大きく上回ることができた。長期休業中に学校閉庁日を設定することで、年次有給休暇が取得しやすくなったことが要因と考えられる。 【年次有給休暇10日以上取得:93.3%】	

<p>【取組内容の進捗状況の結果と分析】</p> <p>① 各教科の学習や生活指導、出前授業等様々な場面で情報モラルの学習を実施することができた。しかし、高学年では、SNS のトラブルが起きているのが現状である。</p> <p>② 指標通りにゆとりの日や学校閉庁日を設定することができた。日々の会議でも、事前に資料を共有し、確認しておくことで時間の短縮も図ることができた。しかし、時間外勤務時間は大阪市平均より長くなっている実態も依然としてある。</p> <p>【R6 学校閉庁日：夏季休業中 9 日 冬季休業中 4 日】</p>	
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p>	
<p>【年度目標】</p> <p>① スクールライフノートの「心の天気」を活用することで、放課後や休み時間のトラブルを把握するきっかけになった事例もあった。引き続き「心の天気」を行っていくとともに、その他での活用もできるように実践事例の共有や研修を行っていく。</p> <p>② 引き続き、年次有給休暇が取得しやすい環境や体制づくりを続けていく。</p> <p>【取組内容】</p> <p>① 次年度も全学年で情報モラルの学習を実施する。各教科の学習に関連させたり、情報モラル教材や出前授業を活用したりして指導を行っていく。特に、高学年は、具体的な事例を交えて定期的に指導を行っていく。</p> <p>② 引き続き、ゆとりの日や学校閉庁日を設定していくとともに、児童や教職員の負担軽減のために運動会等の学校行事の内容の精選を行っていく。</p>	